

---

# 魔術の集う学園

yoshi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔術の集う学園

### 【Nコード】

N2645Z

### 【作者名】

yoshi

### 【あらすじ】

主人公最強物の予定です。

素人の練習用ですので暇な空き時間にも読んで見て下さい。

## プロローグ

「また、会えるよねえ……………」

目の前にいる少女が話し掛けてくる。

その問いかけに対して、少年は、何処か困ったような表情をしている。

「もう、行っちゃうの……」

一緒にいるもう一人の少女も目に涙を溜めながら話掛けてくる。

今別れると……もう二度と会えない。そんな想いで一杯一杯な表情で。

それでも、少年は、どう応えたらいいか解らない。そんな、どこか困った表情のまま二人の少女の前から何も言わずに、何も伝えずに消えたのでした……………。

## ある朝の日常

「ん……。」

窓の隙間から朝日が射し込んでいる。

天気はとても良く気持ちのいい朝である。

それにもかかわらず、部屋で寝息をたてている少女の寝顔はどこか悲しげで目下にはうつすらと涙が浮いている。

「ん……、早く起きて朝ごはん作らないと……。」

少女の意識は、まだ半分以上が夢の中にある。

「それにしても、あの時の夢を視るなんて何時ぐらいだろう……。」「あの時のことは、いまでも鮮明に覚えている。それは、お姉ちゃんも同じだろう。」

少女は、思う。

「何故、何も言わずに去ったのか……。」

そのことが寂しくもあり悲しかった。思い出の中にいる少年は、確かにどちらかというと感情をあまり表に出すような子ではなかったと思う。どちらかというと……

照れ屋さんだったらしい。(これは、後日お母さんから教えてもらった。)最初の頃は、私達とは事務的な会話ぐらいしかなかった。

その時でも少年は、私達とは目を合わさずにする。でも、その状況に転機が訪れるのにそう時間はかからなかった。その時のことを思いだすと恥ずかしくもあり嬉しかった。

少女は、いまだに夢見心地の状態でそんなことを思いながらまた、夢の中に旅立った。

今度は、あの少年とまた会える夢を視ようと想いながら……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2645z/>

---

魔術の集う学園

2011年12月10日23時53分発行